特集 トンテン カンテン、建築の旅。

場所に根ざした建築がスタンダードに

20世紀の日本の建築物はどこに建っても対応できる万能なものだった。
しかしこれからの時代に必要なのは、その場所に根ざしたものなのだとか。

建築物といっても家族が暮らす住宅から多くの人が集まる公共施設まで実に多種多様。とはいえ、用途は違えど人が快適に過ごせる場所という大前提は変わらない。その大前提、旧来はどこにあっても対応できるマルチな建物を意味していた。しかしこれからは地域に合わせたものが重要だと建築家・古森弘一さんは話す。そんな彼が見る未来の建物像に今回は迫る。

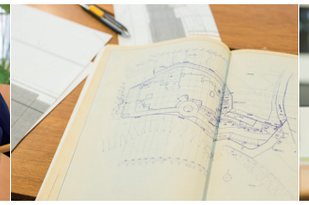
誰よりも楽しんで建築と関わる
そんな恩師の教えを受け継ぎ今に至る

楽しく仕事をすることが一番。それは建築業界も変わらない。
それを古森さんに教えたのは大学時代の恩師だった。

インターネットや交通インフラの発達が目覚ましい近年、地方に拠点を置きながら全国で活躍する人も増えてきている。今回出会った建築家・古森弘一さんも、生まれ育った北九州市で活躍している人の一人。古森さんが建築の道を目指した理由は、両親がインテリアの仕事をしていたことに加え、大学時代の恩師の影響が大きいと話す。

「両親がインテリア関係の仕事をしていたので、幼少のころから周りに職人さんがいるというのは日常でした。彼らに遊んでもらったりモノづくりの楽しさを教えてもらったりしているうちに、自然と建築の道を目指していましたね。とはいえ建築の勉強はハードなので大学に進んでもそのほとんどは設計の道には進みません。しかし、僕が設計を生涯の仕事にしたいと思ったのは、大学の恩師がとても楽しそうに建築と関わっていたからなんです。先生を見て、建築の世界って楽しいに違いないと確信が持てました」。恩師の影響もあるのか、古森さんはとても楽しそうにデスクに向かう。

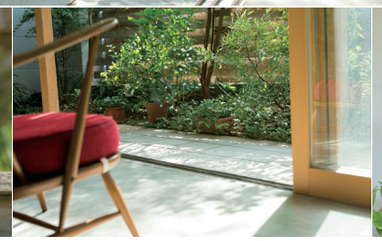
「その恩師とは今もお付き合いさせていただいているんですが、たまに建物を見に行くと今でもすごく楽しそうなんです。それを見て僕も負けないくらい楽しみながら仕事をしたいといつも思っています」と古森さん。現在、福岡市内に建設予定の弁護士会館や熊本の仮設住宅エリアに建設予定の集会所など、大きなプロジェクトの真っ只中にいる彼は、それでも笑顔を絶やさない。その姿は彼が恩師に見た建築の楽しさを、彼の後輩たちに伝えようとしているようだった。



北九州に事務所を構えている古森さんは、東京をはじめとした他府県の共同設計者との打ち合わせにスカイプを使うことも多い。
事務所の中には、現在進行している建築物の模型や設計図が所狭しと並んでいる。

九州工業大学製図室（北九州市戸畑区）

キャンパスレイアウト上、新校舎を建築することが困難だったため、当時利用されていなかったボイラー室を改修して設計製図棟を建設。
ボイラー室の既存構造体に頼ることができなかったため、フロアを入れ子状態で挿入し自立させるよう構造的な工夫がなされている。



W邸（北九州市小倉北区）

住宅と庭の境界に縁側と濡れ縁といったクッションを取り入れることで、外にいるような室内と室内のような庭を表現。
そうすることで家主が暮らす「日常スペース」とお客様を招く「ゲストスペース」を心地よく隔て、人を招くことができる空間を作った。

古森さんの作品にお邪魔します

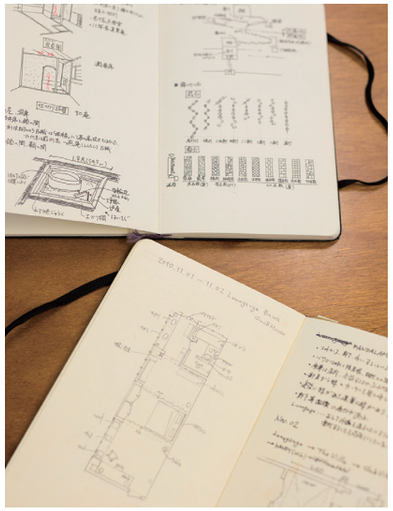
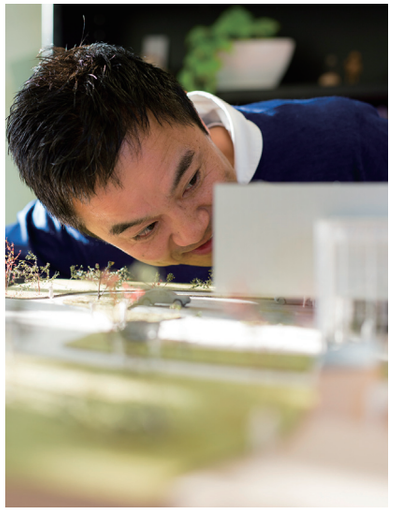
古森さんが手がけた建物にお邪魔し、
実際どう使われているか拝見してみた。

北九州市には古森さんが手がけた建築物が多く存在する。そこで、現地にお伺いして古森さん本人から建築コンセプトを解説していただいた。

まず訪れたのは北九州市小倉北区にあるW邸。当初カフェを併設させた住宅にしたいという施主の依頼に古森さんはNGを出したのだとか。

「よく話しを伺うと施主さんはカフェ経営をしたいわけじゃなかったんです。望んでいたのは人が集う場所。だったら経営の難しいカフェを作るのではなく、住居とは別にお客様を招く空間を作りませんか？と提案しました。それがこの縁側。気持ちの良い庭とそれを見ながらくつろげる空間があれば、お客様も気兼ねせずに長居できると考えたんです」と古森さん。彼は場所とその人が本当に求めているものを的確に見抜いていたのだ。

次に訪れたのは自身も教鞭を取る九州工業大学の製図室。こちらは自身の経験も生かした空間となっていた。古森さんは「学生たちは夏の暑い日も冬の寒い日も、製図室にこもらなければなりません。だから、なるべく暑くなく寒くない空間を作りたいと思ったんです。フロアを入れ子にしたのは空調を効きやすくするため。また、床に人影が見える透過素材を使ったのは、学生たちにここで誰かがんばっているぞ！と刺激を与えたかったから」と話す。どちらも使う人への真心が感じられる、そんな建物になっているのが印象的だった。

一見どこにでもあるオフィスビルの3階にある古森弘一建築設計事務所。事務所内にはパーテーションなどの仕切りが一切ない。これは古森さんが仕事の情報をスタッフ全員と共有するため。もちろん古森さんのための社長室も存在しない。そのポリシーは彼が手がける作品にも影響している。例えばW邸は庭や屋外との境界をできる限り曖昧に作っているし、九州工業大学製図室も、どこにいても人の存在が感じられる空間となっている。

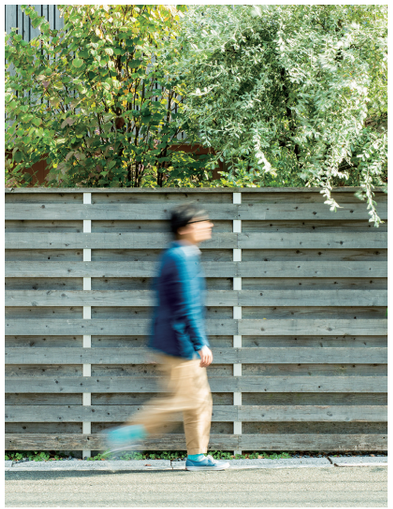
こだわったのは地域と関わる“ソトメシ”空間

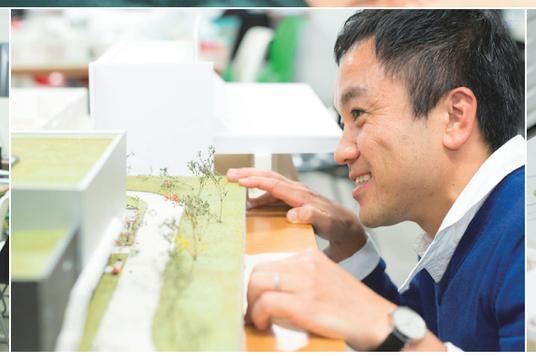
古森さんがもっともこだわるのは、室内と屋外との親和性。
彼のソトメシという発想は、九州人ならではといえる。

一つの作品を見て感じたのは、古森さんの作品には共通した意図があるということ。それを考えながら彼の事務所に戻ると重要なことに気づいた。それは境界がないということ。通常、社内環境を整えるなら、個々のスペースを設けるはず。しかしこの事務所にはそれがない。それを踏まえてW邸や製図室を思い返すと、どちらも境界があいまいだ。例えばW邸は縁側と濡れ縁があるため、庭と居住スペースがくっきりと分かれていない。また、住居の目隠しとなる外壁もランダムに組まれた木でできているため、完全に区切られてはいない。製図室も同様で、従来のボイラー室部分と製図室は空間は分かれているものの、どちらの存在も意識できる仕組みとなっている。古森さんは内と外の親和性についてどう考えているのだろう。

「建築に携わる人間が言うと少し不思議かもしれませんが、僕は外で過ごす時間をデザインしたいと常々考えています。九州の人は家の外でご飯を食べたり、語らったりすることを好みます。それを象徴するのが屋台。あの一年を通して活況な様子を考えると、やっぱり九州の人は外が好きなんだろうなと。外で過ごす時間は生活の中でとても贅沢な時間で、僕はそういった時間や体験を〝ソトメシ〟と呼んでいます。それを与えられた環境で表現することにエネルギーを注いできました。僕は部屋の内と外も同じレベルでデザインしたいと考えています。内と外、僕にとってはどちらも住まいであり建築なんです。そこに親和性を感じていただけたということは、その想いが表現できているということなのかもしれませんね。これから何十年と経った後、内と外の境界があいまいな建築が九州らしい建物となっていればうれしいですね」と古森さんは答えた。

さらに古森さんは、これからの建築はどこでも順応する均一なデザインではなく、その土地に根ざしたデザインが主流になるべきだと話す。その真意についても伺った。





建物は境界ではなく、人や地域と交わる場

古森さんの人との関わり方にも“ソトメシ”の発想は生きている。

土地に根ざしたデザインが主流になるべきと話した理由は、彼が考える建築の新たな価値観に通じるものだった。「20世紀はどこに置いても成り立つ建築に価値がありました。ですが、僕が理想としているのはその場所でのみ価値を持つ建築のあり方です。それを追求すれば20世紀とは異なる建築の可能性が生まれるのではないかと考えています」と古森さん。これは彼が唱える〝ソトメシ〟の発想とリンクする。古森さんが考える建築とは、外との隔たりを作るものではなく、その地域や場所と良好な関係を作るもの。彼が境界を極力排した作品を作り続ける理由はそこにあったのだ。

そしてその発想は事務所でも実践している。現在彼らが手がける弁護士会館は、古森さんだけでなく、スタッフ全員の意見が取り入れられている。仕切りを取り払い、情報を共有した結果、彼ら全員がこのプロジェクトに取り組むことができたのだ。「困ることも多いんですけどね」と笑いながら、それでもこれを続けると古森さんは話す。

そんな古森さんにとって建築設計とは、自分を成長させるプロセスとのこと。

「建築設計を進めるとき、結局人となりを問われている気がすることが多いです。今はまだ建築の神様みたいなものに、『古森はまだ建築をしてもいい』と許可をいただいている感じ。それが引退するまで許可してもらえるよう精進したいですね」と古森さん。彼の建築に対する真摯な姿勢はきっとこれからも変わらないだろう。

恩師から受け継いだ「仕事を楽しむ」という考え方に古森さん自身でたどり着いた“ソトメシ”と融合した結果、全員で全力で一つの物に取り組むという理想的なスタイルとなった。苦労も喜びも共有しあえる仲間とともに、古森さんはこれからも日本の礎を築いていくだろう。

今回の旅のメモ。

今回の旅で訪れたのはこちらです。

profile

古森 弘一
フルモリ コウイチ

1972年福岡県北九州市小倉生まれ。明治大学理工学研究科博士前期課程修了の後、2003年に現事務所設立。現在、九州大学・九州工業大学非常勤講師。建築九州賞作品賞、グッドデザイン賞、福岡県美しいまちづくり建築賞大賞、北九州市都市景観賞、福岡県弁護士会館プロポーザル最優秀賞など、数多くの賞を受賞している。

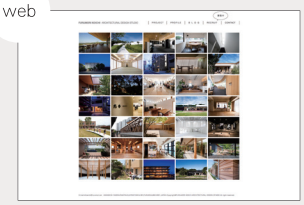
access

古森弘一建築設計事務所まで
[公共交通機関で]北九州空港からノンストップバスでJR小倉駅へ。新幹線口から西へ、浅野二丁目交差点を右折。徒歩約5分。
[車で]北九州空港から新北九州空港連絡道路、県道245号線を経由し東九州道へ。北九州JCTを経由し、九州自動車道へ入り小倉方面へ。
小倉東ICを経由し、長野入口から北九州都市高速道路1号へ。愛宕JCT、北九州都市高速道路3号線、東港JCTを経由し、小倉駅・門司方面へ。約40分

more information

古森弘一さんと関わるあれこれ

web



古森弘一建築設計事務所 web

古森さんのプロフィールのほか、今まで手がけたプロジェクトの写真や平面図を掲載。また施主との打ち合わせ内容やテーマなども書かれているので、建築・設計を目指す学生にもぜひ訪れてほしい。古森さんやスタッフの日常を垣間見るブログもある。

www.furumori.net

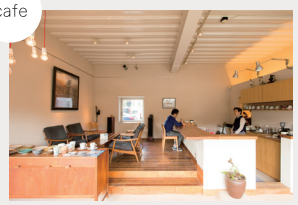
salon

Flore

古森さんが手がけたW邸で展開している完全予約制のネイルサロン。手入れの行き届いた庭を見ながら、ネイリストと共にくつろぎの時間を過ごしてみては。ハンドジェルネイルが一律4,000円というリーズナブルな価格設定もうれしい。

福岡県北九州市小倉北区三郎丸3・3・26
完全予約制(女性のみ)
☎090.9575.1030

cafe



茶家 otto

大きなガラス窓が印象的な音楽家店主のカフェ。手作りにこだわったスイーツと一杯ずつハンドドリップするコーヒーが味わえる。実はこのカフェが入るビル全体を古森さんがデザイン・設計。もちろんこのカフェも手がけている。

福岡県北九州市小倉北区浅野3・4・29 1F
[営]10:30〜18:30 [休]日・祝
☎093.551.2816